



# 聖路加 〈リニューアル〉 チャペルニュース

2024.9.29

— no.275



■ 十字架・チャペル

チ
ャ
プ
レ
ン
メ
ッ
セ
ー
ジ
 「look up」「look out」「look in」

## 礼拝・メディテーション

### 日曜日

■ 10:30 聖餐式・説教 聖ルカ礼拝堂 ■ 17:00 夕の礼拝 トイスラー記念ホール

### 月～金曜日

■ 8:30 朝の礼拝 トイスラー記念ホール（水曜日は聖餐式）

### 水曜日

■ 13:00 聖ルカ礼拝 聖ルカ礼拝堂

### 木曜日

■ 7:00 聖路加メディテーション（キリスト教的座禅） 聖ルカ礼拝堂前ロビー

## チャプレンメッセージ

### 「look up」「look out」「look in」

物質文明が発達するにつれて、むしろ物質を超えた次元の営みが注目されます。瞑想もその一つですが、マインドフルネス (mindfulness) など多様な瞑想のパターンが紹介され、生活の一部として取り入れる人も増えています。西欧世界から始まったその傾向は、今現在、日本にも浸透しつつあります。社会のあらゆる分野において瞑想と関連のあることが取り上げられていますが、本来キリスト教の用語であるリトリートという言葉のホテルや美容業界が使うようになったのもその一環だと言えます。日本語で瞑想と訳される英語にはメディテーション (meditation) とコンTEMPLATION (contemplation) があります。キリスト教においても瞑想という言葉を使うこともありますが、大概はやり方や内容によって、メディテーションは黙想に、コンTEMPLATIONは観想に分けて訳します。

信仰や宗教を超えて瞑想に感心を持つ人が参考にす

ると役に立つ三つの言葉があります。それは、「look up (上を見つめる)」「look out (外を見つめる)」「look in (中を見つめる)」という言葉です。「look up」は、世俗世界であらゆることが混在している日々の営みだけに止まらずに、それを超える次元に感心を向けるということを指します。「look out」は、自分や自分の家族という内輪だけに関心を置くのではなく、共に生きている他者・共同体・社会にも心を配るということを指します。そして「look in」は、自己存在の内面を見つめることを通して、偽りの自分ではなく真の自分に出会うための過程を指します。

「look up」「look out」「look in」は、いわゆるスピリチュアリティ (Spirituality、霊性) の三つの次元を象徴的に表しています。その三つのバランスがどれほど取れているのかどうかによって、人のスピリチュアリティの健全性が現れます。スピリチュアリティは、注意を払わないとバランスを崩し、一つの方向に偏りやすい性質があります。それゆえ、意識的にバランスを取るよう努めることが求められますが、瞑想こそ最も基本的で効果的な方法だと言えるでしょう。

司祭 ヨナ 成 成鍾

## 聖路加コミュニティの声

### キリスト教センターの託された使命

この4月から学校法人聖路加国際大学（以下「聖路加」）キリスト教センターのマネジャーに着任し、聖ルカ礼拝堂からこのような執筆依頼をいただき感謝いたします。

聖路加の目的は、キリスト教精神に基づき、社会の情勢に適應する医療・看護・保健福祉・公衆衛生にかかわる教育を受ける私立大学および医療施設、ならびにその他の教育研究施設の設置・運営を通じ、人類へ奉仕すること、寄附行為において定められております。

この精神に基づき、キリスト教センターは、センター長でもある成チャプレンのもと、聖路加における礼拝等の様々な活動を行うことを託されているものと理解しています。特に9月からは毎週水曜日 13時～聖ルカ礼拝、毎週木曜日朝7時～聖路加メディテーションといった活動をスタートしております。

さて、このような部門がいつから聖路加にあったの

かと思っていたところ、1928年発行の「聖路加国際病院月報」というものを目にし、当時の聖路加には宗教部という部門があったことが分かりました。また、こうした草創期に創立者であるトイスラー博士はキリスト教活動をどう考えていたのか。トイスラー博士から直接薫陶を受け、その後、院長を務められた橋本寛敏先生は、トイスラー博士を回顧し、「トイスラーは、医療を通じて人々にキリスト教を教えこむのではなく、キリスト教信徒として人種、貴賤、貧富の別なく、すべての人に熱心に医療奉仕をすることにより、人々の間で自然とキリスト教精神が生まれてくると信じて実行していた」と述べています。そして、聖路加内でのキリスト教活動は、信頼する宗教部のチャプレンに任せられていたようです。

こうした系譜を引き継いだ現在のキリスト教センターにおいて、微力ながら聖路加の原点を改めて思い起こして更なる発展へとつながるよう尽力していきたいと思っております。

キリスト教センターマネジャー  
法人事務局（秘書課・法人事務課）兼務  
野村 牧人

## 私とチャペル

### 私たちの支えとなるチャペル

聖路加のチャペルについての原稿を書こうと思ったとき、私が最初に思い出したのは大学の入学式でした。神聖な雰囲気の中行われた入学式で、これから始まる大学生活に期待と不安を抱いたことをよく覚えています。大学生活の中でチャペルを訪れる機会は多くはありませんでしたが、毎年行われていたクリスマス会に参加したり、改修工事期間に入る前に同学年の何人かでチャペルを訪れたり、今思うとチャペルは常に私たちのそばにあったと思います。

改修工事の関係で、卒業式や入職式はチャペルで行



うことができず残念でしたが、工事が終了してから今年に入ってようやくチャペルに行く機会がありました。祖母の外来受診に付き添い、診察が終わるのを待っている間に家族とともに久々訪れたのですが、チャペルは以前と変わらない姿で存在していて、またオルガン演奏が聴こえてきて私自身とても安心したのを覚えています。

病院内にこのような素敵なチャペルがあることを誇りに思うのと同時に、今後も患者や患者家族など多くの方の支えになっていくと強く感じました。

那須 ひかり（手術室看護師）

#### >> 次の方への一言

浦部時美さんです。手術室に配属されてからずっと一緒に働いている同期です。よく浦部さんの家にお邪魔するのですが、そこで一緒に鍋をするのが大好きです！

## Q&A

### Q. 聖公会はカトリック？プロテスタント？

A. 聖路加国際病院は米国聖公会から派遣された宣教医師トイスラー博士によって設立されました。では、聖公会はどのような位置づけなのでしょう？

キリスト教会は行政上、大きく東西に分かれました。10世紀頃のことで、ローマを中心にした西方（カトリック＝普遍的）教会、コンスタンチノポリスを中心とした東方（オーソドクス＝正統的）教会です。西方教会の伝統はローマ・カトリック、聖公会、プロテスタント諸教会に、東方教会はギリシャ正教会、ロシア正教会、コプト教会等に受け継がれています。

「聖公会（せいこうかい）」は、カンタベリー大主教を精神的指導者とするイングランド国教会から生まれ、世界165ヶ国以上に広がる42の管区（Province）と5つの特別管区（Extra-Provincial 小規模な自治区）からなるキリスト教会です。信徒は数千万人。各管区はいくつかの教区を持って教義を共有していますが、それぞれが自治権を有しています。ローマ・カトリックとプロテスタントに大別される西方キリスト教会の中で「聖公会」は両者の持つ要素を兼ね備えた「改革されたカトリック教会」、また、その中間に位置する教派であることから「中道（Via Media）の教会」、「橋渡しの教会（Bridge Church）」と呼ばれることもあります。

聖公会の信仰は18世紀から19世紀にかけて、英国と米国の両聖公会により東アジアへと伝えられました。日本には1859年（安政6年）に米国聖公会から2人の宣教師が渡来し、今日の礎を築きました。日本においてキリスト教禁令が廃止された後は、英国やカナダ聖公会の宣教師団も伝道に加わり、1887年（明治20年）に「日本聖公会（にっぽんせいこうかい）」が創設されました。

聞いてみたいご質問がありましたら、[chapel@luke.ac.jp](mailto:chapel@luke.ac.jp)まで。

## チャペルコラム

### 聖ルカ礼拝堂での黙想会体験記

8月17日(土)10時から、成チャプレンによる黙想会(東京教区・共育プロジェクト)が聖ルカ礼拝堂で行われました。

聖公会の日曜日に行われる聖餐式(パンとぶどう酒を頂く)とは違った趣の礼拝です。トイスラー記念ホール(本館2F)で平日毎朝8時半から行われている朝の礼拝の式文を用いての黙想会でした。冒頭のレクチャーでは普段何気なく唱えている式文のお祈りの言葉の意味や読み方の速度などについても教えていただきました。

お祈りの言葉はゆっくりと読むこと。「主の祈り」も何度も読むのでツラツラと口だけがしゃべってしまいがちですが、有名な神学者マルティン・ルターはイエスが教えられたとても大切な「主の祈り」が非常に粗末に軽く扱われていることを憂い「主の祈りこそ教会史上、最大の殉教者である」と言ったそうです。

司会者と会衆が交互に唱える詩編は途中に「/(スラッシュ)」が入っているのですが、この意味は、少し「間」を置くことだそうです。会衆の皆さんと「間」のあとに息を合わせて唱え始めることを意識すると礼拝の緊張感が保たれます。その「間」の一瞬の沈黙の中に永遠につながる祈りがありました。成先生も毎回礼拝をしているとだんだん早口になってしまうので、

意識的にゆっくり読むようにしているとおっしゃっていました。私が個人的に感じた詩編の「間」は心の中で「1・2・3」と数える感じでしょうか。詩編をゆったりしたペースで唱えると、ほんの一瞬の「間」ではありますが、茶道でいうと柄杓をトンとお釜に置くような、また水琴窟で水滴がポトンと落ちるような、そんな心のゆとりを感じられました。慣れるととても心地よいテンポです。

礼拝の中で福音書を、3種類の翻訳で3回聴きました。少しずつ違う翻訳、違う人が読む聖書朗読を聴くのも、面白い感覚です。その後成先生が黙想のポイントをいくつか提示してくださって15分ほど黙想しました。黙想の後に2~3人で分かち合いのひととき。それぞれの祈りの中で感じたことをシェアすることで、自分の受け取ったインスピレーションを言語化すると同時に、さらに豊かなものになりました。

黙想会の礼拝の前後に聖歌を4~5曲歌いました。成先生のしっかりと美しいリードでアカペラで歌います。アカペラの歌声が一つになり、荘厳に礼拝堂に響いて天高く昇っていくのは何よりの祈りでした。

美しい聖ルカ礼拝堂で行われる黙想会、とても素敵です。皆様もぜひお越しください。共に祈りましょう。(次回の日程は、日本聖公会東京教区・共育プロジェクト・黙想会、で検索してみてください。)

キリスト教センター  
マーガレット 本幡 羊子

## チャプレン室便り

### ■ オルガンのオーバーホール

10月7日(月)~10月25日(金)、第2期のパイプオルガンオーバーホールが行われます。今後は来年4月に第3期のオーバーホールが行われる予定です。

### ■ 病院墓地礼拝

10月27日(日)15:00から、多磨霊園の聖路加国際病院礼拝堂墓苑で、墓参の祈りをささげます。

### ■ 逝去者記念の祈り

11月2日(土・諸魂日)の15:00より、逝去者記念の祈りを執り行います。過去一年間に亡くなられた方々の名前を読み上げ、お祈りします。お祈りをご希望の方はチャペル事務室までご連絡ください。

### ■ 子ども祝福式

11月10日(日)、主日礼拝の中で子ども祝福式を行います。お友達にも是非声をかけて祝福を受けにお越しください。

### ■ 聖ルカ礼拝スタート

2024年9月より、毎週水曜日13:00~「聖ルカ礼拝」を開始しました。教職員に限らずどなたでもご参加ください。内容:聖書・チャプレンメッセージ・黙想/司式:成成鍾(主任チャプレン)他/奏楽:高橋博子(学校法人聖路加国際大学オルガニスト)/場所:聖ルカ礼拝堂

### ■ 聖路加メディテーション(キリスト教的座禅)スタート

2024年9月より、毎週木曜日朝7:00~「聖路加メディテーション(キリスト教的座禅)」を開始しました。命に携わり常に多忙な教職員が黙想(座禅)をしながら自らをかえりみて静けさの中に留まる時間です。その日のカードを一枚取り、書かれた言葉を心に留め、思いめぐらし、黙想します。日時:毎週木曜日7:00~8:30の間OPEN(入退場自由)/場所:聖ルカ礼拝堂前ロビー